

忠犬タローの話



あやし日のタローの姿



石岡駅でジッと誰かを待つタロー



子どもたちともなかよし

昭和39年、一匹の犬が東小学校に迷い込んできました。誰が呼ぶともなく、「タロー」と名付けられ、児童たちにかわいがられました。

朝と夕方、タローは石岡駅に向かいます。そして、いつも駅の待合室から改札口をジッと見つめています。誰かを待っている目です。午後4時から3時間も待っています。

待ちくたびれたタローは寂しそうに帰って行きます。それは十数年も続きました。行き帰りの道は国道6号線、車の通行量もとても多く危険です。

でも、タローは、道の左側を走り、歩道橋を渡り、常磐線の踏切を渡って東小学校と石岡駅の間を行き来します。横断歩道も白線に沿って渡り、踏切で遮断機が下りていれば横で座って待ち、人が渡り出してからついて行きます。交通規則をしっかりと守ることのできるとても賢い犬です。

「タローはきょうも」という歌もつくられ、東小学校の愛唱歌にもなりました。タローは誰を待っていたのでしょうか。それは、タローにしか分かりません。

「あした会えるさ～忠犬タローものがたり～」が2012年1月に創刊されたということです。